

# 約束の言葉



大阪府 大阪教育大学附属池田中学校 3年

戸島 由浦

第5回日本語大賞 中学生の部 優秀賞 受賞作品

私の家では家を出る時必ず、「いつてらっしゃい」「いつてきます」のあいさつを言う。幼い頃からの習慣なのであまり気にとめていなかったが、ある時父とケンカして「いつてらっしゃい」を言わなかったことがある。その時母がこう言った。

「人間いつ死ぬか分からないんだよ。今日事故に遭うかもしれない。突然倒れるかもしれない。災害に遭って帰れなくなるかもしれない。その時後悔しないように、何があっても笑顔でいつてらっしゃいと言おう。」

普段は明るくポジティブな母がそんなことを言うのは私にとっては意外な事だった。だからか、その言葉は私の心を強くうち、次の日からは毎日「いつてらっしゃい」を欠かさないようになった。幸い、笑顔で見送っておいでよかっただと思うような凶事はおこっていないが、私は今も「いつてらっしゃい」の大切さを忘れてはいない。毎日、「無事に帰ってきてね」と思いをこめて言っている。

また、「いつてきます」も大切だ。家族に出発を知らせるだけではない。「いつてらっしゃい」に応じて「必ず帰る」という約束の念がこめられている。家というホームグラウンドから出ることを意識して、気持ちを引き締めることもできる。だから私は、無人の家から出るときも「いつてきます」を家の中に向かって言う。「必ず帰る」という思いと「今日も頑張ろう」という抱負を持って。そうすると家も「いつてらっしゃい」と言ってくれているような気がする。

このように「いつてらっしゃい」「いつてきます」の応酬はとても大切だ。なぜならこれは、「必ず帰ってきて」「必ず帰る」という約束の言葉だからだ。

毎日家に帰れるのは当たり前のことではない。私たちの周りには様々な危険がひそんでいる。私の住んでいる関西でもこの夏に、市役所の火災・花火会場での爆発などの事故が発生し負傷者が出た。死亡者も、二名いる。おそらく、これらの事故に遭った人々は家を出る時事故の想定はしていなかっただろう。熱中症で病院へ送られる人も多くいた。その人々も熱中症を想定してはいなかっただろう。私たちに、いつどこで何がおきてもおかしくないのだ。

当たり前ではない「必ず帰る」ことを約束する。「いつてらっしゃい」「いつてきます」によって私たちは、生きていることの素晴らしさまで感じるができると思う。それを言っただけで家を出れば、家に帰ってきた時の安心感、満足感も大きい。約束を果たして帰ってきたからだ。

ただのあいさつのように本当は最も重い約束、言わなければ一生後悔するかもしれない「いつてらっしゃい」「いつてきます」はとても奥の深い言葉だと、今改めて思う。こんなに奥の深い言葉は他にない。これこそが伝えるべき言葉である。現在の人々、家族だけでなく、未来の人々にも伝えるべき言葉だ。どんなに平和な世界になっても「いつてらっしゃい」「いつてきます」が言われ続けることを願う。

さあ、今日も私は言おう。約束の言葉を。